

走る金融インターフェース

AI技術の進展や運転手不足を背景に、自動運転の社会実装が進みつつある。決済や保険のあり方にも変化が生じており、将来的には車両自らがサービスを利用し支払いを行う世界も想定される。本稿では、自動運転が金融・決済インフラにもたらす変化を考察する。

間瀬 英之

三井住友フィナンシャルグループ シリコンバレー・デジタルイノベーションラボ
兼 JRI America Director, Senior Researcher

自動運転システムが金融を変える

運転手不足は、地方部を中心に公共交通や物流サービスの維持を困難にしている。その解決策として、自動運転バスやロボタクシーの導入が進みつつある。また、自動運転のインパクトは交通分野にとどまらない。移動に付随する決済や認証などの金融サービスにも変革をもたらし始めている^{*1}。米国で商用展開されているWaymoは、その動向を考えるうえで参考になる事例である。利用者はクレジットカードなどを事前登録し、運賃は既存の決済ネットワークを通じて自動精算される。仕組み自体はUberやLyftと大きく変わらない。しかし、Waymoは運転手が存在しないため、現金での支払いや乗車時の決済ではなく、利用開始から決済完了までをデジタルで完結させることがサービスの前提となっている。自動運転サービスでは、決済や認証などを含む一連の利用プロセスをデジタルで実現することが不可欠である。

保険分野への車両データ活用

自動運転が金融分野にもたらす変化は決済にとどまらない。Teslaが展開するTesla Insurance^{*2}の事例が象徴的だ。Teslaは車両から取得する走行データや安全スコアを活用して保険料を算定しており、従来の、年

齢や事故歴といった静的情報中心の保険とは異なる。

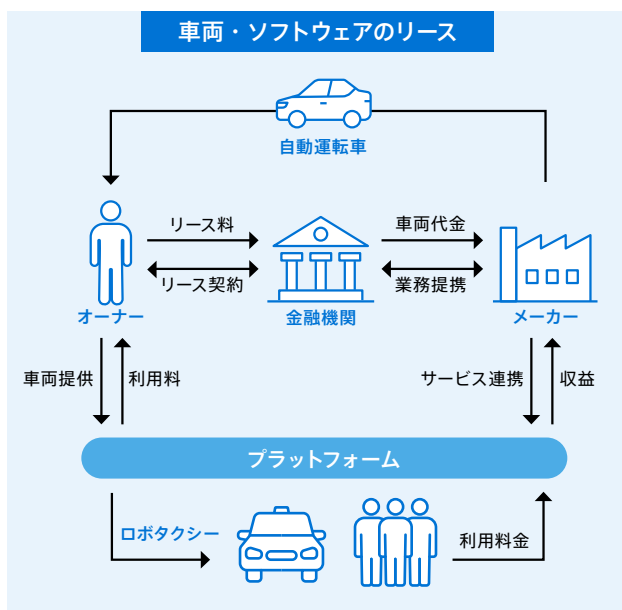
テレマティクス保険自体はすでに普及しているものの、コネクテッドカーの進展によって、取得可能なデータが増加している。Tesla Insuranceはその一例であり、自動車メーカーが保有する車両データを活用した保険の高度化の可能性を示している。例えば、急ブレーキや急ハンドル、車間距離、速度超過といった運転行動に加え、FSD^{*3}などの運転支援機能に関するデータも活用されている。こうしたデータは、将来的に運転者だけでなく、自動運転システムの安全性や信頼性、効率性を評価する指標として活用されるだろう。また、将来的に自動運転が普及すれば、保険の対象が個人ドライバーだけでなく、自動運転バスやロボタクシーなどのフリート運営へと広がることも考えられる。

機械同士による取引や決済

自動運転の進展が最終的に行き着く先は、車両そのものが金融サービスの利用主体となる世界である。Teslaが構想するCybercab^{*4}では、無人運行が視野にある。将来的には、充電や駐車、保守サービスの利用時に、車両が事前に設定された条件の範囲内で自動決済を行うケースも考えられる。この世界では、車両と充電器、道路インフラ、店舗が直接価値交換を行う。結果、機械同士による取引や決済が増加する可能性がある。

また、自動運転バスやロボタクシーなどのフリート運

図表 金融機関における自動運転への関与例



出所：日本総研作成

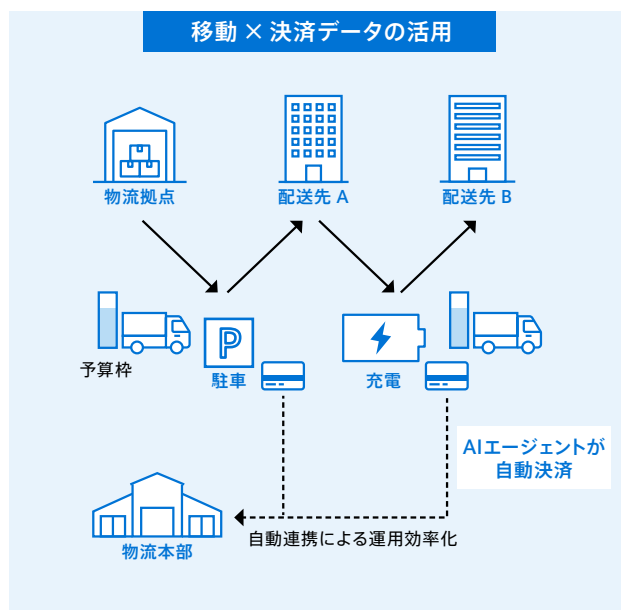
営では、車両による自動決済と移動データの連携が重要になる。これにより運営効率の向上や採算管理の高度化が期待される。Teslaは、個人所有の自動運転車が未稼働時間帯にロボタクシーとして稼働し、その収益の一部を所有者へ還元する構想を示している（図表）。自動車が収益を生み出す資産となれば、リースや融資など金融サービスとの連携も新たな論点となるだろう。

自動運転の普及によって移動空間そのものがさまざまなサービス利用や消費活動の場へと変化する未来においては、決済や認証などの金融機能の重要性はさらに高まるはずだ。

こうした世界では、法整備やセキュリティ対策が整う前提で、自律的な機械間取引を支える決済インフラの整備が重要になる。自動運転によって生成されるデータや顧客接点を誰が握るかは、金融サービスの提供主体にも影響を与えると見込まれる。

おわりに

自動運転が変わるのは移動だけではない。Waymo



は決済、Tesla Insuranceは保険の変化を示している。さらに将来的には、車両がサービスを利用し、自ら支払いを行う場面も想定される。金融サービスの接点は、スマートフォン中心の世界から、モビリティに組み込まれる世界へと広がりつつある。金融機関には、こうした新たな取引を支える決済・認証基盤の整備が求められるだろう。X

- * 1 日本総研 先端技術リサーチ「自動運転技術の現在地と社会実装 ― 技術成熟度、政策動向、金融サービスへの示唆 ―」（2026/6/10）(<https://www.jri.co.jp/advanced/advanced-technology/detail/16724/>)
- * 2 Tesla公式HP Tesla Real-Time Insurance (<https://www.tesla.com/support/insurance/tesla-real-time-insurance>)
- * 3 FSD (Full Self-Driving) : Teslaが提供する高度運転支援機能。車線変更や交差点通過などを支援するが、運転主体はドライバーであり、完全自動運転ではない。
- * 4 Teslaが発表した自動運転専用ロボタクシー構想。ハンドルやペダルを搭載しないことを前提とした車両であり、将来的な無人運行サービスの実現を目指している。

Profile

間瀬 英之
(ませ・ひでゆき)

2014年日本総研入社。18年より先端技術ラボに所属、25年より三井住友フィナンシャルグループ シリコンバレー・デジタルイノベーションラボに駐在。共著書に『量子コンピュータまるわかり』（日経BP）がある。

